北海道開発局長記者会見資料
平成30年1月17日

北海道命名150年を記念した北海道開発局の取組について

～150年間積み上げたインフラが、暮らし、経済、安全を支えています～

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

北海道開発局ホームページへはこちらから。

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

北海道命名150年を記念した北海道開発局の取組について

国土交通省

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

○概　要

◇北海道命名150年を記念する様々な取り組みが行われる中、この150年間積み上げられ、今も北海道の暮らし、経済、安全を支えているインフラが、一般の方々にとってより身近なものになるよう、様々な取組みを行います。

◇平成30年をキックオフ期間とし、以降も継続的に取組みます。

○進め方

◇今年8月に札幌で開催される、土木学会全国大会との連携。（パネル展や講演会等）

◇北海道のインフラ整備の歴史をたどるツアーの実施。

・今の暮らしを支えているインフラの背景や歴史、効果等を解説し、体感や実感できる内容を交えながら、ストーリー性のあるコンテンツとして展開。

・第8期目となる北海道総合開発計画において、世界の北海道を目指すにあたっての戦略的産業として位置づけられている「食」と「観光」は、これまでのインフラの積み上げにより発展してきた。

・本ツアーでは、これら北海道「食」と「観光」、さらに、現在や過去のインフラを体感・実感できるメニューも展開。

・従来から行っている公共施設の見学に加え、関係機関と調整・連携することで、より幅広い内容とする。

◇地方公共団体、インフラ管理団体、関係学会、大学、経済団体等と連携し、インフラの役割を分かりやすく世の中に発信。

インフラ整備の歴史をたどるツアーの実施（例①）

国土交通省

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

○国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川の治水の歴史

◇現在、日本有数の穀倉地帯となっている篠津地域は、かつては農耕が困難な軟弱で水はけの悪い泥炭地であった。また、その地域を流れる石狩川は、度々氾濫し水害を引き起こした。

◇明治期からの治水対策により、石狩川流域の水害被害の軽減が図られ、水位低下により土地の排水を促進。さらに、世界銀行の融資を受けて行われた国家的プロジェクト「篠津泥炭地開発」による排水・灌漑施設等の整備により、農地の基盤が築かれた。

◇本ツアーでは、こうした泥炭地の開発や石狩川の治水の歴史について、実際に現地を巡りながら、安心して生活や農業ができるようになった地域の成り立ちを学び、インフラ整備の成果を実感できる内容とする。

取水施設（頭首工）

長大用水路

「ゆめぴりか」や「ななつぼし」に代表される美味しいお米

安心した暮らしや農業の実現

「篠津泥炭地開発」と「石狩川の治水」の歴史をたどる旅【運河、頭首工、資料館、新水路など】

石狩川の治水対策の歴史

農地の排水や客土による土地改良

「泥炭」との戦い

石狩川のショートカットによる水位低下

泥炭地開発の様子

インフラ整備の歴史をたどるツアーの実施（例②）

国土交通省

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

○我が国の繁栄を支えた「小樽港」と鉄道「手宮線」の歴史

◇かつて、我が国のエネルギー需要に対応するため、北海道の石炭の供給が国家的課題であった。このため、産炭地幌内から小樽に至る鉄道と小樽港の整備が行われ、小樽港からの安定した石炭の積み出しが実現した。

◇手宮線は北海道で初めて（日本でも3番目）開通し、石炭輸送のみならず、旅客輸送でも活躍した。
当時最新の技術で整備された北防波堤により、小樽港における石炭や物資の安定した荷役が可能となった。

◇小樽は物資流通の拠点として栄え、金融機関が建ち並び、道内経済の中心地となり、「北のウォール街」と呼ばれるまでに繁栄した。

◇本ツアーでは、石炭の運搬から始まった鉄道の歴史と、当時最新の技術で整備された小樽港北防波堤に代表される港湾の歴史を学び、その後の海運業の発展がもたらした小樽の繁栄などを実感できる内容とする。

当時の最新技術（斜塊ブロック）を用いた防波堤

我が国の最新技術を駆使した小樽港北防波堤

我が国のエネルギー需要を支えた石炭の搬出

手宮線の輸送物資の変遷

現在多くの観光客が訪れている小樽の繁栄を支えた、「小樽港」と「手宮線」の歴史をたどる旅
【北防波堤、運河、博物館など】

多くの歴史的建造物

海運業の発展による小樽経済の繁栄

小樽運河